会　議　要　旨

会議の名称	川越市農政モニター平成３０年度第１回会議
開催日時	平成３０年７月６日（金） 午前１０時００分　開会　・　午前１１時５５分　閉会
開催場所	福田ビル３階会議室
座長	村川　はつ枝
出席者	川越市農政モニター（９名） 農業者　塩野富雄、沼田敏明 商業者　長井良憲、佐藤由美子、村川はつ枝 消費者　太田直敬、及川一廣、正木一弘、三井麻希子 事務局 田中部長、相川副部長、小野寺副課長、小川副主幹、 関口主事補
会議次第	１　開会 ２　あいさつ ３　農政モニター自己紹介・事務局紹介 ４　議題 ⑴　座長の選任について ⑵　川越市農政モニター会議概要について ⑶　川越市の農業概要について ⑷　川越市で「農のある生活」を充実させるには ⑸　その他 ５　その他 ６　閉会
配布資料	１　会議次第 ２　平成３０年度・３１年度川越市農政モニター名簿 ３　川越市農政モニター要綱 ４　川越市農業振興施策の概要 ５　平成３０年度農政事業の概要 ６　農産物直売所マップ ７　「農のある生活」他市事例

議　　事　　の　　経　　過

1　開会

2　あいさつ（田中部長）

3　農政モニター自己紹介及び事務局職員紹介

4　議題

⑴　座長の選任について

互選の結果、村川氏が選任された。

⑵　川越市農政モニター会議概要について

川越市農政モニターは、法律や条例に基づく審議会や委員会等とは異なり、審査や調査を行うものではない。本市の農業振興に資するため、農業行政等について農業者、消費者及び商業者から意見、要望等を聴取することを目的とする。任期は 2 年間とし、年 3 回開催する。次回のモニター会議の開催は 10 月、その次は 1～2 月を予定している。会議では積極的にご意見をいただくようお願いする。

⑶　川越市の農業概要について

事務局より、平成３０年度農政事業の概要を基に、主に以下の事項を説明し、委員より質問・意見をいただいた。

・　川越市の農業の現状について（p.1）
　　―川越市農政事業の概要―
・　食料の安定供給と地産地消の推進（p.4）
・　農産物のブランド化の推進（p.7）
・　担い手の育成・確保の推進（p.8）
・　農地の有効活用（p.9）
・　農業とのふれあいの推進（p.10）
・　川越市農業振興計画重点プロジェクト（p.12）

→主な意見のまとめは 3 ページに記載

⑷　川越市で「農のある生活」を充実させるには

→次回会議に持ち越し

⑸　その他

→なし

5　その他

→なし

6　閉会

〈主な意見まとめ〉

〇ＰＲ活動について

・女子栄養大学との連携などの活動があることはあまり知られていない。ＰＲ方法を改善すべきで、チラシを配布するだけでなく、小中学校などに出向くなど顔が見えるＰＲをすべき。

〇サツマイモの貯蔵庫について

・サツマイモの生産量を増やすためには、貯蔵施設が必要であり、千葉や茨城の産地に設置してある。いも菓子を作っているが今の時期（6 月）は全国的にモノがない。市内にはサツマイモを扱った店が多いにもかかわらず使われていない現状がある。

〇グリーンツーリズムについて

・外国人観光客の多くが「観光・体験・緑とのふれあい」を求めている。交通手段を充実させて体験型のイベントを増やすことにより、多くの人が訪れる。バス等に頼ることなく、自転車を使った周遊のプランもあるとよい。

・外国人は花が好き。花を広範囲に植えると人を呼べる。

・川越市が主体となり人が集まるものを数か所作り上げ、それらをグリーンツーリズムでつなげる。

〇イベントについて

・若い人向けに事業を行えば、インスタグラム等で自然に広まる。

・川越をＰＲするスイーツコンテストなどを開催し、高校生の料理クラブなどに参加してもらうとよい。

〇農業者を増やす施策について

・農業者が増えないのは農業の魅力の有無ではなく儲からないことが原因。

・流通業界では女性が物を運びやすいように服装を改良している。農業でも負担軽減できるものがあるかもしれないので、それに補助を行うとよい。

・「汚れる、設備にお金がかかる、儲からない」では就農する人はあまりいない。

・農業機械に多額の費用がかかることが課題。

・新たな農産物を川越市始動で作り上げ、観光地での消費を図れば、就農者を増やすことにつながる。

・「これを植えれば収入が上がる」等を提示するなど、方針を出してもらえるとよい。

〇その他

・川越の野菜の品質が高いことを活かし、観光客に野菜を食べてもらいお土産として購入してもらう事業があってもよい。

・中国人、タイ人、台湾人など外国人はブロッコリー等の冬野菜の品質の高さに驚いていた。東南アジアではジャポニカ米に対する嗜好が高い。地産地消だけではなく、輸出も検討すべき。